

芥川賞作家 多和田葉子氏



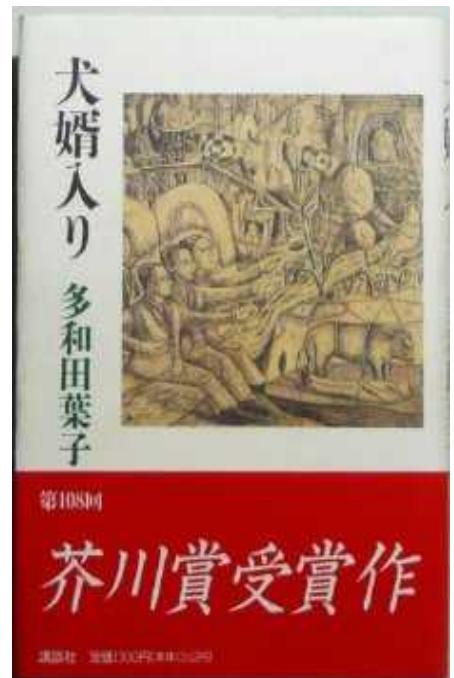
1991年(31歳)『かかとを失くして』で群像新人文学賞、1993年(32歳)『犬婿入り』で芥川賞を受賞した多和田葉子氏は高校30期の卒業生。

立高在学中、吹奏楽部ではクラリネットを吹き、文芸部では同人誌に作品を発表するなどの創作活動に励み、また第二外国語はドイツ語、自由選択授業は油絵を受講するという多才ぶりを發揮。高3の夏には小説を自費出版し、近隣の書店に置いてもらうというエピソードもある。

早稲田大学第一文学部ではロシア文学を専攻。卒業後は単身ドイツに渡り、出版社勤務や大学での言語研究をしつつ詩や小説を書き続けた。

ドイツ語、日本語両方の言語でそれぞれ違う作品を発表するという独特的のスタイルで世界中にTAWADA WORLDを展開している。

また、芥川賞受賞作品の装画・装幀を担当した永畠風人氏も同期のOBである。



=主な受賞歴=

群像新人文学賞(1991年)
芥川龍之介賞(1993年)
シャミッソー文学賞(1996年)
泉鏡花文学賞(2000年)
ドウマゴ文学賞(2002年)
伊藤整文学賞(2003年)
谷崎潤一郎賞(2003年)

ゲーテ・メダル(2005年)
早稲田大学坪内逍遙大賞(2009年)
紫式部文学賞(2011年)
野間文芸賞(2011年)
読売文学賞(2013年)
芸術選奨文部科学大臣賞(2013年)